

令和5年度岐阜県教育委員会主要施策の概要

目 次

1 ぎふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

1 「ふるさと岐阜」を学ぶふるさと教育の充実	1
2 地域と連携したキャリア教育の推進	1
3 国際理解教育の充実とグローバルに活躍する人材の育成	2
4 優れた才能や個性を伸ばす教育の推進	2
5 産業教育の推進	3
6 未来を創り出す人材を育成する学校づくりと地域との連携の推進	3

2 多様な学びを支援する教育体制の充実

1 特別支援教育の推進	5
2 学びのセーフティネットの構築と学びの再チャレンジの推進	7
3 多文化共生社会を目指した外国人児童生徒等の教育の推進	8
4 いじめ等の未然防止と早期発見・早期対応の徹底	8

3 未来を切り拓くための基礎となる力をはぐくむ教育の推進

1 これからの時代に求められる資質・能力の育成	10
2 ICTを活用した学習活動の充実	10
3 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進	11
4 人権教育の推進	11
5 主権者教育などの現代的な課題に対応した教育の推進	11
6 体力づくりの推進	12
7 健康教育・食育の推進	12
8 人格形成の基礎を培う幼児教育の充実	12

4 勤務環境の改革と教職員の資質向上

1 長時間勤務・多忙化解消に向けた取組の推進	13
2 ハラスメントとメンタル不調等の速やかな察知と解決	14
3 体罰、不祥事の根絶とコンプライアンス意識の確立	15
4 働きやすい環境づくりに向けたマネジメント力の向上と組織体制の確立	15
5 優れた教職員の確保と資質・能力の向上	15

5 学びを支援する安全・安心な教育環境づくり

1 学校施設の整備の充実	17
2 ICTの環境整備と利活用の推進	17
3 子どもたちの安全・安心の確保と危機管理体制の充実	18
4 家庭や地域と学校が連携した教育環境づくりの推進	19

令和5年度岐阜県教育委員会主要施策の概要

(令和4年度→令和5年度予算 単位：千円)

1 ギフへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

1 「ふるさと岐阜」を学ぶふるさと教育の充実

- ・ 「清流の国ぎふ」ふるさと魅力体験事業費【教育総務課】 48,494→26,495
岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等に関する施設や史跡等で行う体験活動を、小・中・高校、特別支援学校のすべての校種で実施し、「ふるさと岐阜」の魅力を学ぶ取組を推進
- ・ 地域連携による活力ある高校づくり推進事業費【教育総務課】 12,350→11,960
生徒数の動向から活性化が求められる高校において、学校の活性化に向け、地域と連携した学習活動支援策、活性化策を推進
- ・ 地域課題探究型学習推進事業費【教育総務課】 8,480→8,480
いわゆる中堅進学校において、大学研究者や企業経営者等による出前授業や実践研究を通じた、地域課題を発見・解決する学習を推進
- ・ グローカル探究実践事業費【高校教育課】 7,500→7,500
国内外の高等教育機関や地域と連携し、教科・科目の枠を超えた協働的・探究的な学びを通じて、課題解決や新たな社会的な価値を創造する資質・能力を育成
- ・ 地域共創フラッグシップハイスクール事業費【高校教育課】 19,000→19,000
国内外の大学や海外と繋がりのある企業等との連携による研究・実習・体験等を通じて、グローバル化に対応するコミュニケーション能力や課題解決力等の国際素養を身に付け、地域創生等の様々な分野で専門性を生かして活躍できるリーダーを育成
- ・ 地域産業の担い手育成総合戦略事業費【高校教育課】 12,400→12,400
専門高校において、産業界と連携の上、地域資源を活用した実践研究や、地元企業の仕事への理解を深める体験等を通して、地域産業の担い手となる専門的職業人を育成
- ・ 地域創生キャリアプランナー設置事業費【高校教育課】 45,410→47,051
就職希望者が多く、かつ進路先が多様な普通科設置校を中心に、学びの視点で学校と関係機関等をつなぐことのできる地域や企業に精通した外部人材を配置
- ・ 岐阜県ふるさと教育表彰事業費【義務教育課】 361→361
学校における「ふるさと教育」の実践を広め、県内学校の「ふるさと教育」への機運を一層高めるため、優れた取組を実践している学校を顕彰

2 地域と連携したキャリア教育の推進

- ・ 高校生と中学生が共に学ぶキャリア支援事業費【高校教育課】 5,339→5,339
中学生段階から進路について考える機会を設けるとともに、高校生に社会で必要となる表現力や発信力を育成し、学習成果を発表する機会を設ける等、発達段階に応じたキャリア教育の充実を図る

- ・ 外国人児童生徒キャリア支援事業費【義務教育課】 5,000→5,000
日本語指導、教科指導等の充実により、学力向上を総合的に推進するとともに、幼・小・中・高が連携した切れ目のない指導体制の構築及びキャリア教材等を作成
- ・ 高校生インターンシップ推進事業費【高校教育課】 2,377→2,377
すべての県立高校において、就業体験を通じて主体的な進路の選択能力を育成できるインターンシップの推進体制を構築
- ・ 地域産業の担い手育成総合戦略事業費【高校教育課】（再掲） 12,400→12,400
専門高校において、産業界と連携の上、地域資源を活用した実践研究や、地元企業の仕事への理解を深める体験等を通して、地域産業の担い手となる専門的職業人を育成
- ・ 地域創生キャリアプランナー設置事業費【高校教育課】（再掲） 45,410→47,051
就職希望者が多く、かつ進路先が多様な普通科設置校を中心に、学びの視点で学校と関係機関等をつなぐことのできる地域や企業に精通した外部人材を配置

3 国際理解教育の充実とグローバルに活躍する人材の育成

- ・ 県立高校生海外実習派遣事業費【高校教育課】 0→8,994
生徒が育てた農畜産物の売り上げを活用し、農業後継者育成のため、農業高校生をアメリカ、ブラジル、ドイツ、オランダへ派遣
- ・ 外国語指導助手等設置費・活動費【教育研修課】 246,114→250,540（54人→54人）
全ての県立高校において生徒の英語4技能を育成するため、外国語指導助手（ALT）の授業を週1回程度受講できるように配置するとともに、学校における国際理解教育をサポートするための国際交流員を総合教育センターに配置
- ・ グローバル化対応教員育成事業費【教育研修課】 7,847→7,842
グローバル人材育成に対応するため、英語担当教員に対する実践的な研修を充実し、語学力を向上させるとともに指導力を強化
- ・ 海外交流支援事業費【高校教育課】 10,617→10,617
県立高校における海外の姉妹校との交流を促進するとともに、高校生の海外留学費用の支援（原則1年間）や留学フェアの開催により海外留学を促進
- ・ 地域共創フラッグシップハイスクール事業費【高校教育課】（再掲） 19,000→19,000
国内外の大学や海外と繋がりのある企業等との連携による研究・実習・体験等を通じて、グローバル化に対応するコミュニケーション能力や課題解決力等の国際素養を身に付け、地域創生等の様々な分野で専門性を生かして活躍できるリーダーを育成

4 優れた才能や個性を伸ばす教育の推進

- ・ 学力向上総合推進事業費【義務教育課・高校教育課】 10,493→10,493
児童生徒に確かな学力を身に付けさせるため、興味・関心や優れた能力を伸ばすセミナーや英語スピーチコンテスト等様々なコンテストを開催

- ・ 理数教育フラッグシップハイスクール事業費【高校教育課】 11,500→11,500
学習指導要領において求められる、自らが主体的に課題を発見し、その解決を図ることができる生徒の育成を推進するため、教育カリキュラムを研究・開発
- ・ 理科・数学教育設備充実費【高校教育課】 19,000→19,000
学習指導要領に対応した理科教育に関する備品の整備及び老朽化した備品の更新を推進し、理科教育を充実
- ・ 学校体育指導事業費【体育健康課】 865→865
体育の授業や運動部活動を担当している教職員に対し、指導力の向上を図る研修会等を実施
- ・ 運動部指導者派遣・研修事業費【体育健康課】 9,875→8,999
専門的技量を有する社会人指導者を高校の運動部活動に派遣するとともに、指導者養成のための研修を実施

5 産業教育の推進

- ・ 産業教育振興設備整備費【高校教育課】 165,984→165,984
産業教育の充実を図るため、実習装置・設備の整備や修繕等を計画的に実施
- ・ 学校農場基盤整備費【高校教育課】 4,824→5,072
生産の効率化を図り、生産性の向上に資するとともに、生徒の実験実習における安全を確保するため、県立学校の農場基盤を整備
- ・ 地域産業の担い手育成総合戦略事業費【高校教育課】（再掲） 12,400→12,400
専門高校において、産業界と連携の上、地域資源を活用した実践研究や、地元企業の仕事への理解を深める体験等を通して、地域産業の担い手となる専門的職業人を育成

6 未来を創り出す人材を育成する学校づくりと地域との連携の推進

- ・ **拡** 高等学校における単位制導入の推進【高校教育課】 定数 211人→230人
個別のより高度な学習ニーズへの対応、大学合格実績の向上、大学から就職までを含めた多様な進路希望に対応するための単位制を導入
- ・ 学校運営協議会等設置費【教育総務課】 9,156→9,041
全ての県立学校に学校運営協議会を設置し、学校運営に協議会委員の意見を反映させたコミュニティ・スクールにすることで、地域に根差した学校づくりを推進
- ・ コミュニティ・スクール推進体制構築事業費補助金【義務教育課】 1,602→1,602
学校運営協議会の設置を進める市町村に対して、学校運営協議会の運営や、地域との連絡・調整を行う人材の配置に係る経費を支援
- ・ 進学指導推進事業費【教育総務課】 5,760→5,760
近年減少傾向にある、いわゆる難関大学への県立学校からの合格者数の増加を図るため、普通科がある高校を中心に、教師の進学指導力や生徒の学力の向上を推進

- ・ 地域連携による活力ある高校づくり推進事業費【教育総務課】（再掲） 12,350→11,960
生徒数の動向から活性化が求められる高校において、学校の活性化に向け、地域と連携した学習活動支援策、活性化策を推進

2 多様な学びを支援する教育体制の充実

1 特別支援教育の推進

- ・ 特別支援学校職業教育テキストデジタル化事業費【特別支援教育課】 2,807→1,896
特別支援学校の職業教育テキストを最新の内容に更新するとともに、動画コンテンツ等を加えてデジタル化を推進
- ・ **拡** 高校通級体制強化事業費【特別支援教育課】 2,018→2,430
岐阜・美濃地区において県立高校へ出向いて指導を行う「巡回型の通級による指導」を実施するとともに可茂地区において準備を開始
- ・ **拡** 医療的ケア児校外学習活動充実事業費【特別支援教育課】 1,753→2,029
特別支援学校に在籍する医療的なケアを必要とする児童生徒が、保護者が同伴しなくても安心して校外学習等に参加できるよう医療的ケア実施体制を整備
非常勤看護師派遣校 13校→15校
- ・ 発達障がい支援担当教員養成事業費【特別支援教育課】 1,965→1,964
幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校の教員が、発達障がいのある児童生徒に対する支援について、一人一人の課題に合わせて学べる研修を実施
- ・ **拡** 小中適応支援非常勤講師の配置（国加配・定数崩し）【義務教育課】
障がいのある児童生徒が在籍する通常学級に対し配置し、チームティーチングにより指導
児童生徒支援非常勤講師 155人→172人
- ・ 通級指導【義務教育課】 定数 396人→481人
通常学級に在籍しながら、特別な指導を行う必要がある児童生徒に対して、週1～3時間専門教室において指導
- ・ 高等学校での通級指導担当教員の配置【高校教育課】 定数 9人→9人
高等学校に通級による特別の指導(少人数コミュニケーション講座)を導入するためのモデル配置
配置校 不破、東濃、華陽フロンティア、東濃フロンティア、飛騨高山、山県、岐阜北、関
- ・ 医療的ケア看護師の配置【高校教育課】
特別支援学校における近年の障害の重度重複化傾向による、痰の吸引、経管栄養、導尿等医療的なケアが必要な児童生徒の増加に対応するため、常勤または非常勤の看護師を配置
医療的ケア常勤看護師の配置 定数 7人→6人
医療的ケア非常勤看護師の配置 33人→30人
- ・ 特別支援学校就労支援オフィス設置費・運営費【教育総務課】 105,818→82,484
特別支援学校等内に就労支援オフィスを設置し、特別支援学校の卒業生等をスタッフとして雇用し、特別支援学校での教員経験のある支援員の指導のもと、就労に必要なコミュニケーション能力や意欲・態度を養成

- ・ 聴覚障がい児童生徒支援充実事業費【特別支援教育課】 1,870→2,069
 岐阜聾学校等に在籍する聴覚障がいのある児童生徒に対し、音声を文字情報に変換するソフトを活用した学習支援を行うほか、東濃及び飛騨地域において、聴覚障がい教育に関する研修会及び保護者向け相談会を開催
- ・ 特別支援教育 I C T活用充実事業費【特別支援教育課】 1,063→818
 入院生徒や訪問教育を受ける児童生徒が授業にリモート参加できるよう環境を整備し、学習機会を確保するとともに、生徒の実態に応じた在宅勤務モデルケースを企業等と連携して構築し、就労機会の拡大を推進
- ・ 聴覚障がい児童早期支援事業費【特別支援教育課】 2,392→2,272
 飛騨特別支援学校において、聴覚障がい支援専門教員を中心に、岐阜聾学校と連携した幼児教室を開催
- ・ スクールバス購入費【特別支援教育課】 107,084→152,527
 特別支援学校の児童生徒の通学に係る負担を軽減するため、スクールバスの乗車時間が概ね 60 分以内となるようスクールバスを整備
 令和 5 年度整備 9 台（更新 9 台）
- ・ 高等学校特別支援教育支援員配置事業費【特別支援教育課】 56,594→57,502
 発達障がいのある生徒や肢体不自由・病弱等の生徒の学校での学習・生活を個別支援するため、対象生徒が在籍する高校へ特別支援教育支援員を配置
 発達障がい 22 人→24 人 肢体不自由、病弱等 7 人→5 人
- ・ 発達障がい総合支援推進事業費【特別支援教育課】 2,217→727
 発達障がい等のある生徒への支援を強化するため、令和 4 年度に開校した山県高校の「通級による指導（自校型）」に発達障がい支援スーパーバイザーを派遣
- ・ 特別支援学校就労支援総合推進事業費【特別支援教育課】 8,574→8,514
 特別支援学校高等部・高等特別支援学校の生徒に対する職業教育の充実及び就労支援の強化を図るため、「働きたい！応援団ぎふ」の登録企業拡大や就業体験・企業内作業学習を推進
- ・ 特別支援学校インクルーシブ教育システム構築事業費【特別支援教育課】 4,635→4,538
 一人ひとりの多様な教育的ニーズに応じて、地域の学校や人々と共に学び合う交流及び共同学習を推進
- ・ 特別支援教育医療的ケアサポート事業費【特別支援教育課】 2,140→1,928
 特別支援学校に在籍する医療的ケアが必要な児童生徒が、学校の授業を安全に受けられるよう医療的ケアの実施体制を整備
- ・ 就労支援コーディネーター事業費【特別支援教育課】 11,491→11,653
 実習・雇用の受け入れ企業の開拓及び就労情報を集約・発信するため、岐阜清流高等特別支援学校、西濃高等特別支援学校、可茂特別支援学校に就労支援地域コーディネーターを配置
- ・ 特別支援教育充実のための養護教諭の配置（国加配）【義務教育課】 定数 2 人→2 人
 近年の ADHD や LD など発達障がいに対する支援体制の強化策として、心身・医療的側面から専門的に指導・援助ができる養護教諭を配置

- ・ 特別支援教育担当充て指導主事の配置（国加配・県単）【義務教育課】 定数 6 人→6 人
障がいのある幼児、児童生徒に関する相談、就学指導や小中学校における特別支援教育体制整備への支援を実施
- ・ 特別支援学校のセンター的機能の充実【高校教育課】 定数 7 人→7 人
特別支援教育における地域のセンターとしての機能を発揮するため、教員を配置
配置校 岐阜盲、岐阜聾、大垣特支、郡上特支、関特支、東濃特支、飛騨特支

2 学びのセーフティネットの構築と学びの再チャレンジの推進

- ・ 県選奨生奨学金【教育財務課】 90,648→90,324
学業成績が優秀でありながら、経済的理由により修学が困難な生徒に対して奨学金を貸与
- ・ 高等学校奨学金【教育財務課】 14,124→11,214
勉学意欲がありながら、経済的理由により高等学校での修学が困難な生徒に対して、成績要件なしで奨学金を貸与
- ・ 子育て支援奨学金【教育財務課】 15,909→12,792
教育費の負担が大きくなる高校生の時期に、子どもが3人以上いる世帯の第3子以降の生徒を対象に、成績要件や所得要件なしに奨学金を貸与
- ・ 定時制・通信制課程修学奨励費【教育財務課】 8,064→8,064
高等学校の定時制通信制課程に在学する生徒に対し、修学奨励費を貸与（卒業を条件に返還義務は免除）
- ・ 公立高等学校等就学支援金【教育財務課】 3,965,956→3,940,164
年取約910万円未満の世帯の生徒等に対して、授業料に充てるための就学支援金を支給
- ・ 高校生等奨学給付金【教育財務課】 436,412→412,362
保護者（親権者）が岐阜県に在住し、保護者（親権者）全員の市町村民税所得割が非課税（相当）である世帯の公立高校生等に対して奨学給付金を給付
- ・ 公立高等学校等学び直し支援金【教育財務課】 1,366→903
中途退学後に再入学した生徒に対して、授業料に充てるための就学支援金相当額を支給（要件は公立高等学校等就学支援金と同じ）
- ・ 公立高等学校等専攻科支援金【教育財務課】 1,071→952
公立高等学校の専攻科に通う低所得世帯の生徒に対して、授業料に充てるための支援金を支給
- ・ 定時制通信制教科書等給与費補助金【高校教育課】 800→800
勤労青少年の高等学校定時制通信制課程への修学を円滑にし、教育の機会均等を確保するため、必要な教科書購入費を支援

3 多文化共生社会を目指した外国人児童生徒等の教育の推進

- 外国人児童生徒キャリア支援事業費【義務教育課】（再掲） 5,000→5,000
日本語指導、教科指導等の充実により、学力向上を総合的に推進するとともに、幼・小・中・高が連携した切れ目のない指導体制の構築及びキャリア教材等を作成
- 外国語指導助手等設置費・活動費【教育研修課】（再掲） 246,114→250,540（54人→54人）
全ての県立高校において生徒の英語4技能を育成するため、外国語指導助手（ALT）の授業を週1回程度受講できるように配置するとともに、学校における国際理解教育をサポートするための国際交流員を総合教育センターに配置
- 外国人児童生徒適応指導員配置事業費【義務教育課・高校教育課】
81,169→81,402（26人→26人）
外国人児童生徒の母国語が使用できる指導員を関係教育事務所及び県立学校に配置し、日本語指導が必要な外国人児童生徒の学校生活への適応指導や日本語指導を実施
配置 教育事務所 ポルトガル語6人、タガログ語6人、中国語1人
県立学校 ポルトガル語3人、タガログ語7人、中国語3人
- 小中学校における日本語指導教員等の配置（基礎定数・国加配・定数崩し）【義務教育課】
校内に設置した「日本語指導教室」で外国人児童生徒に対して日本語指導や、学校生活への適応指導、家庭との連絡などを実施
日本語指導教員（常勤）定数 62人→73人
日本語指導非常勤講師 50人→51人
- 〔**拡**〕 高等学校における外国人生徒支援教員の配置（国加配）【高校教育課】定数 10人→11人
日本語指導の必要な外国人生徒が在籍する東濃高校、加茂高校（定時制）に支援教員を配置し、外国人生徒を対象とする選択科目の開設や、放課後、空き時間の日本語指導に対応

4 いじめ等の未然防止と早期発見・早期対応の徹底

- 〔**新**〕 県立学校内「ほっとプレイス」整備推進事業費【学校安全課】 0→13,704
不登校の早期段階において、個別の学習支援や相談支援を受けられる教育支援センター「ほっとプレイス」を県立高等学校に整備
- 〔**新**〕 学校内教育支援センター整備促進事業費補助金【学校安全課】 0→26,095
不登校の早期段階において、個別の学習支援や相談支援を実施するために、学校内教育支援センターを整備する市町村を支援
- 自殺未然防止・不登校等児童生徒支援事業費【学校安全課】 25,833→25,883
中学校、義務教育学校、高等学校において、スクールカウンセラーによる「SOSの出し方に関する教育」を実施するとともに、教育相談のニーズが高い高等学校13校にスクール相談員を配置
- スクールカウンセラー設置費・事業推進費【学校安全課】 366,973→327,353
すべての中学校区及び公立高等学校・特別支援学校にスクールカウンセラーを配置するとともに、学校のカウンセリング機能の充実を図るため、スクールカウンセラー等の能力強化を図る研修を実施

- ・ **【拡】 いじめ不登校対策事業（国加配定数崩し）【義務教育課】（再掲）**
 児童生徒数が急増し、問題が発生しやすくなる学年に非常勤講師を配置し、担任とのチームティーチングにより、きめ細かく対応
 児童生徒支援非常勤講師 155人→172人
- ・ **地域担当生徒指導充て指導主事【高校教育課】 定数 7人→7人**
 警察、各学校の生徒指導主事及び各種協議会と連携し、補導業務や不審者対策等地域の広域的な生徒指導を担当
- ・ **不登校児童生徒の学習支援体制整備事業費【義務教育課】 600→600**
 県内のフリースクール等民間団体及び市町村教育委員会と連携し、子どもの学習機会の確保を図るとともに、市町村に「学校・フリースクール等連携ガイドライン」の作成を促す
- ・ **S N S を活用した相談体制構築事業費【学校安全課】 9,000→7,112**
 プレッシャーや精神的動揺が生じやすい長期休業明け前後に、中学生・高校生等を対象に S N S を活用した相談窓口を設置
- ・ **県立学校いじめ防止等対策組織運営費【学校安全課】 1,852→1,852**
 すべての県立学校のいじめ防止等対策組織に弁護士と臨床心理士を配置し、専門家の立場からの意見を参考に実効的ないじめ問題の解決を図る
- ・ **いじめ防止総合対策費【学校安全課】 7,525→7,525**
 いじめ防止のため、いじめ対策チーム等の組織を設置し運営するとともに、いじめ対策として事例研究で学ぶいじめ事案の対応研修会を開催する
- ・ **スペシャリストサポート事業費【学校安全課】 11,912→11,912**
 学校だけでは対応が困難な事案が発生した際に、専門的な知識・知見に基づく対応策等の助言を得て適切な初期対応・早期解決を図るために、外部の専門家を派遣
- ・ **スクールソーシャルワーカー活用事業費【学校安全課】 17,604→17,621**
 児童生徒が抱える貧困などの課題を把握し、関係機関との連携を支援するため、社会福祉士等を公立小・中学校や高等学校・特別支援学校へ派遣
- ・ **子供 S O S 2 4 電話相談事業費【学校安全課】 4,262→6,149**
 児童生徒や保護者の抱える悩みを受けとめる相談窓口として、夜間・土日・祝日も含めた 24 時間体制で電話相談を実施
- ・ **いじめ未然防止・不登校等児童生徒支援事業費【学校安全課】 2,880→2,880**
 児童生徒の自己肯定感等を高める学校づくりを通して、いじめ等を未然防止するため、学識経験者等を公立学校等に派遣
- ・ **学校教育ネット安全・安心推進事業費【学校安全課】 2,624→2,749**
 インターネットによるいじめや犯罪被害等から児童生徒を守るため、インターネット上の児童生徒に関する問題のある書き込みや画像等について検索・監視を実施
- ・ **いじめ・不登校対応教員の配置（国加配）【義務教育課】 定数 76人→76人**
 いじめ、不登校が深刻化した生徒指導の困難校に配置（校内の指導体制の確立、教員の指導・研修、他機関との連携、保護者の啓発等を担当）

3 未来を切り拓くための基礎となる力をはぐくむ教育の推進

1 これからの時代に求められる資質・能力の育成

- ・ **拡** 教科学習新システム構築・運営費【義務教育課】 18,865→18,865
児童の学習状況の把握や教員の負担軽減のため、小学校1～6年生の算数の学習において、スタディ・ログ（学習履歴）に基づき、一人一人に最も適した学習を提供する機能を新たに追加した教科学習システム（NEW!GIFUウェブラーニング）を運用
- ・ **拡** 少人数学級の充実（国加配）【義務教育課】 定数 258 人→370 人
1 学級 35 人以下となるよう、少人数学級編制を小学校 1～5 年生及び中学校 1～2 年生に小学校 6 年生及び中学校 3 年生を加え、小中学校全学年で実施
- ・ 小学校専科指導教員の配置（国加配）【義務教育課】 定数 113 人→ 113 人
非常勤講師 627 人→1,034 人
- ・ 少人数指導の継続（基礎・国加配）【義務教育課】 定数 282 人→150 人
非常勤講師 440 人→494 人
30 人以下の学習集団で個に応じたきめ細やかな指導を行うことにより、学力の定着を図るための少人数指導を実施
- ・ 教科担当充て指導主事（国加配）【義務教育課】 定数 40 人→40 人
児童生徒一人一人に確かな学力を身につけさせるため、教師の指導力の向上を目指し、研修事業や訪問指導を行うため、各教育事務所に配置
- ・ 高校指導法改善（国加配）【高校教育課】 定数 5 人→5 人
高校において英語等の授業で習熟度別少人数指導を実施するため配置

2 ICTを活用した学習活動の充実

- ・ DX対応教員研修事業費【教育研修課】 1,974→1,943
DXによる教育の情報化や校務の効率化を図り、1人1台タブレット端末等のICTを基盤とした学びを充実するための教員研修を実施
- ・ 特別支援学校職業教育テキストデジタル化事業費【特別支援教育課】（再掲） 2,807→1,896
特別支援学校の職業教育テキストを最新の内容に更新するとともに、動画コンテンツ等を加えてデジタル化を推進
- ・ ICT教育基盤運営事業費【高校教育課】 89,055→53,085
文系、理系、実習など授業展開に応じた配信環境の構築、1人1台端末への学習支援ソフト導入により、県立学校におけるICTを活用した学習環境を整備
- ・ 県立学校ICT環境整備事業費【教育財務課】 204,587→204,587
全県立学校の普通教室や理科室などの特別教室に、大型展示装置、無線LAN、パソコンなどのICT環境やデジタル教材を整備

- ・ コンピュータ教育支援（国加配）【義務教育課】 定数 15 人→15 人
コンピュータを活用した授業の実施や、情報モラル教育を推進するための中心となる教員を配置
- ・ **新** 公立高等学校入学者選抜 WEB 出願システム構築・運営費【高校教育課】 0→85,451
県内で統一的に運用できる公立高等学校入学者選抜WEB出願システムを導入し、オンラインでの非接触型出願を実現することで、生徒や保護者の出願作業及び学校事務の効率化・簡素化を図る
- ・ **新** 校務支援システム構築・運営費【高校教育課】 0→2,822
県立高校における情報漏洩防止及び教員の業務負担軽減の観点から、システムを更新し、生徒の成績等個人情報を含む校務全般のデータを適切に管理
- ・ **新** 学習評価の充実推進事業費【義務教育課】 0→2,174
学習指導要領全面実施に伴い、「指導と評価の一体化」に基づく指導を推進する。また、学習者用デジタル教科書を効果的に活用した指導や評価の方法を検証

3 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

- ・ 高等学校における演劇等ワークショップ事業費【高校教育課】 17,968→16,774
演劇等の自己表現を通して、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るため、県立高校にプロの演出家や俳優等を講師として招へいし、演劇表現等のワークショップを開催
- ・ 道徳教育徹底指導事業費【義務教育課】 3,741→3,741
児童生徒の豊かな心と望ましい道徳性の涵養を図るため、学校・家庭・地域社会が連携し、地域ぐるみの道徳教育を充実

4 人権教育の推進

- ・ 人権教育推進事業費補助金【義務教育課】 1,631→1,631
児童生徒の人権感覚の向上と地域ぐるみの人権教育を推進
- ・ 人権教育対策活動費【義務教育課】 1,848→1,848
「岐阜県人権教育基本方針」の周知徹底を図るとともに、今日的な人権課題について教員の理解を深め、各学校における指導の充実を図るため研修を実施
- ・ 人権教育開発事業費【義務教育課】 1,691→1,691
基本的人権の精神を高め、一人一人を大切にした教育及び学校における人権教育に関する指導方法の改善・充実を図るため、学校、家庭、地域社会が一体となった教育上の総合的な取組を推進

5 主権者教育などの現代的な課題に対応した教育の推進

- ・ 法教育推進事業費【高校教育課】 1,000→1,000
主権者として社会の中で自立、他者と連携・協働しながら社会で生き抜く力を、生徒に身に付けさせるため、県立学校において弁護士等の専門家による講義を開催

6 体力づくりの推進

- ・ 学校体育指導事業費【体育健康課】（再掲） 865→865
体育の授業や運動部活動を担当している教職員に対し、指導力の向上を図る研修会等を実施
- ・ 運動部指導者派遣・研修事業費【体育健康課】（再掲） 9,875→8,999
専門的技量を有する社会人指導者を高校の運動部活動に派遣するとともに、指導者養成のための研修を実施

7 健康教育・食育の推進

- ・ 健康教育支援事業費【体育健康課】 1,349→1,733
LGBTの正しい理解や性に関する犯罪や暴力の防止等について正しく理解するため、産婦人科医等の専門家による講座を開催
- ・ 学校保健総合支援事業費（単独分）【体育健康課】 743→692
中学校、高等学校におけるがん教育の充実を図るため、専門医等を活用したがん教育の授業の実施及び研修会を開催
- ・ G I F U食のマイスタープロジェクト事業費【体育健康課】 1,300→1,300
生涯にわたって健全な心身を養うため、学校段階に応じた食に関する実践力を身に付ける取組を実施
- ・ 食育充実のための栄養教諭の配置【義務教育課・高校教育課】 定数(小中)147人→143人
定数(特支)20人→20人
学校の食の安全面、安心面の管理が行き届くよう、食の衛生管理を充実

8 人格形成の基礎を培う幼児教育の充実

- ・ 幼児教育総合推進事業費【義務教育課】 1,000→1,000
幼稚園、保育所、認定こども園と小学校の円滑な接続のための岐阜県版接続期カリキュラムの普及・啓発を行うとともに、各園・学校の好事例を収集し県内へ普及

4 勤務環境の改革と教職員の資質向上

1 長時間勤務・多忙化解消に向けた取組の推進

- ・ **新** 部活動の地域移行等に向けた実証事業費【体育健康課】 0→114, 131
休日の中学校部活動の地域移行に伴う効果や課題を幅広く検証するため、関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備、指導者の確保、参加費用負担への支援等を実施
- ・ **新** 地域移行体制構築支援事業費【体育健康課】 0→1, 594
休日の中学校部活動の地域クラブ活動への円滑な段階的な移行を推進するため、関係者との連絡調整や体制構築等に係る協議会の運営などを行う事務局を設置
- ・ 地域部活動指導者育成研修事業費【体育健康課】 1, 090→1, 090
休日の中学校部活動の段階的な地域移行に向けて地域のスポーツ・文化芸術指導者の充実を図るため、新たな指導者の養成研修会を開催
- ・ 部活動指導員配置促進事業費補助金【体育健康課】 22, 200→39, 800
適切な練習時間や休養日の設定など公立中学校の部活動の適正化を進めている市町村教育委員会を対象に、部活動指導員の配置に係る経費の一部を補助
- ・ スクールカウンセラー設置費・事業推進費【学校安全課】（再掲） 366, 973→327, 353
すべての中学校区及び公立高等学校・特別支援学校にスクールカウンセラーを配置するとともに、学校のカウンセリング機能の充実を図るため、スクールカウンセラー等の能力強化を図る研修を実施
- ・ 小学校専科指導教員の配置（国加配）【義務教育課】（再掲） 定数 113 人→ 113 人
非常勤講師 627 人→1, 037 人
- ・ デジタル採点システム導入事業費【教育管理課】 6, 237→4, 876
定期試験等の採点業務の効率化を図り教員の負担を軽減するため、答案を読み込みパソコンで採点・集計業務ができるシステムのソフトを、全ての県立高校に導入
- ・ 県立学校部活動指導員・部活動アシスタント設置費【高校教育課】 165, 553→165, 062
県立学校の部活動の技術面での指導や顧問の補佐的業務を担う部活動アシスタントの配置に加え、単独で部活動の指導や引率を行う部活動指導員を県立高校に配置
- ・ 県立学校業務アシスタント設置費【高校教育課】 66, 471→68, 841
会計事務やデータ入力等の効率化を図るため、業務アシスタントをすべての県立学校に配置
- ・ スクール・サポート・スタッフ配置事業費補助金【義務教育課】 126, 000→110, 000
小中学校の教職員の補助として、学習プリントの印刷業務等を行うサポートスタッフの配置を支援
- ・ 県立高等学校校務支援システム運営費【高校教育課】 14, 671→14, 671
県立高校における情報漏洩防止及び教員の業務負担軽減の観点から、センターサーバー型の統一したシステムにより生徒の成績等個人情報を含む校務全般のデータを管理

- ・ 農場管理支援事業費【高校教育課】 17,089→17,279
県立高校における農業科の教諭・実習助手が行っている学校農場での業務のうち、土日祝日の管理業務を外部人材に委託することで、農業教員の時間外業務の縮減を図り、働き方改革に寄与
- ・ 部活動ガイドラインを踏まえた適切な部活動の推進【学校支援課・体育健康課】
部活動ガイドラインを踏まえた各学校の方針に基づき、部活動における「質」の向上と適正化を図り、持続可能な部活動の運営を推進
- ・ スクールソーシャルワーカー活用事業費【学校安全課】（再掲） 17,604→17,621
児童生徒が抱える貧困などの課題を把握し、関係機関との連携を支援するため、社会福祉士等を公立小・中学校や高等学校・特別支援学校へ派遣
- ・ **新** 県立特別支援学校校務支援システム運営費【特別支援教育課】 0→60,170
県立特別支援学校における情報漏洩防止及び教員の業務負担軽減の観点から、クラウド型の統一したシステムにより生徒の成績等個人情報を含む校務全般のデータを管理

2 ハラスメントとメンタル不調等の速やかな察知と解決

- ・ メンタルヘルス対策費【教育総務課】 3,584→3,584
日々の健康管理に繋がるよう疲労ストレス測定機器の充実を図るとともに、精神科医師による「心の健康相談室」を設置するほか、ラインケア充実のための研修や啓発等を実施
- ・ 教職員ハラスメント等防止対策審議会設置費【教育管理課】 2,880→2,880
ハラスメントや過労死等の疑いのある事案を調査・審議する第三者機関を設けるとともに、弁護士による外部相談窓口や臨床心理士による相談が受けられる体制を整備
- ・ 教職員相談対応専門職設置費【教育管理課】 2,827→2,892
ハラスメント等に関する悩みを抱えた教職員が相談しやすい環境をつくるため、県教育委員会内に専用相談窓口を設置
- ・ こころの定期健康診断事業費【教育総務課】 6,032→6,032
メンタル不調の早期発見とセルフケアの推進のため、Webを利用したストレスチェックを実施するとともに、高ストレス者または過重労働者に対するセルフケアの啓発と医師の面談を実施
- ・ 健康管理運営事業費【教育総務課】 844→913
若年層からの生活習慣病予防に関する保健指導や啓発等を実施

3 体罰、不祥事の根絶とコンプライアンス意識の確立

- ・ 研修事業費（教職員の体罰・不祥事根絶に向けた取組の推進）【教育研修課】
体罰を根絶するとともに不祥事を絶対に起こさないよう、常に適切な指導ができる資質・能力を高める教職員研修を実施
- ・ 研修事業費（教職員のコンプライアンス意識の確立）【教育研修課】
新任管理職研修や初任者研修などの経年研修において、服務規律遵守及び倫理の保持に向けた意識強化を図る研修を実施

4 働きやすい環境づくりに向けたマネジメント力の向上と組織体制の確立

- ・ 主幹教諭の配置（国加配）（定数 42 人→42 人）【義務教育課】
学校が直面する課題について、組織を有機的に生かし、迅速かつ本質的に解決するために各郡市の生徒指導上の拠点校に配置
小学校 16 人→16 人 中学校 26 人→26 人
- ・ 研修事業費（労務管理に関する研修の実施）【教育研修課】
ミドルリーダーや管理職に対して、教職員の正確な勤務時間の管理をはじめとする労務管理や、働きがいのある良好な職場環境づくりを推進するための研修を実施

5 優れた教職員の確保と資質・能力の向上

- ・ **新** 教員確保推進事業費補助金【義務教育課】 0→0
県内高校を卒業した者で、令和 5 年度以降に実施する採用試験において、小中学校の教員として採用され、本県で 7 年以上勤務予定の者に対して、大学時の奨学金の返還を採用後 7 年にわたって支援（総額 144 万円/人）する。（債務負担行為 令和 5～12 年度 58,000 千円）
- ・ **新** 再任用教諭への担任手当の支給【義務教育課・高校教育課】
教員不足や若手教員の増加に対応するため、即戦力であり、若手の手本となるベテラン教員の確保に向け、定年後、引き続き再任用教諭として任用され、学級担任を受け持つ者に対して、手当を支給する。
- ・ 教職員採用試験業務委託費【義務教育課・高校教育課】 14,593→14,593
採用試験の質的改善や受験者増加に向けて、採用試験業務の一部について外部委託を実施
- ・ 自ら学ぶ教職員応援事業費補助金【教育研修課】 1,500→1,500
若い教職員を中心としたグループが公務外で自主的に行う研修及び研究活動を支援
- ・ 教職員採用試験費【義務教育課・高校教育課】 5,203→5,217
人物重視の採用を行うために充実した面接試験を行うとともに、実践的指導力を推し量る実技試験等を実施
- ・ 初任者研修（国加配）【義務教育課・高校教育課】 定数 102 人→87 人
各学校の新規採用教員に応じて、指導教員を配置
- ・ 初任者研修非常勤講師【義務教育課・高校教育課】 非常勤講師 736 人→706 人
各学校の新規採用教員に応じて指導教員を配置するとともに、初任者が校内外研修等を受講する際の後補充非常勤を設置
- ・ 団塊シニア人材バンク【義務教育課・高校教育課】
企業や行政等で長年活躍し退職した団塊の世代の方で、教員免許状を所有し、豊かな経験を教育の場で生かす熱意のある方を登録するため人材バンクを設置

- ・ 研修事業費【教育研修課】 11,776→11,791
経験年数や職務に応じて、教職員として身に付けるべき資質・能力の習得や専門的知識を高める研修に加え、新任教員の実践的指導力と使命感を養うため、教育公務員特例法第23条の規定に基づき、1年間の研修を実施
- ・ 新規採用公立幼稚園指導員の設置【教育研修課】 11,230→11,230
新規採用公立幼稚園職員として、基礎的な知識の習得と専門職としての実践的指導力の育成及び資質の向上を図るため、指導員を配置し、園内研修を充実

5 学びを支援する安全・安心な教育環境づくり

1 学校施設の整備の充実

- ・ 老朽校舎改築事業費【教育財務課】 3,363,223→4,469,547
平成30年度に策定した基本計画に基づき、県立高校6校において老朽化が著しい校舎を計画的に改築
- ・ その他学校建設事業【教育財務課】 4,482,877→3,969,421
 - 校舎等改修 3,912,363→3,219,399
 - その他施設整備 570,514→750,022
- 特別支援学校設置基準対策事業費【教育財務課】 0→26,342
令和3年9月に公布された特別支援学校設置基準における校舎や運動場の基準面積を満たすための学習環境を整備
- ・ 学校環境衛生設備整備費【体育健康課】 494→494
学校保健安全法に位置づく学校環境衛生基準において、二酸化窒素測定器により年2回の検査を実施する機器等の配備や性能検査を実施

2 ICTの環境整備と利活用の推進

- ・ DX対応教員研修事業費【教育研修課】（再掲） 1,974→1,943
DXによる教育の情報化や校務の効率化を図り、1人1台タブレット端末等のICTを基盤とした学びを充実するための教員研修を実施
- ・ ICT教育基盤運営事業費【高校教育課】（再掲） 89,055→53,085
文系、理系、実習など授業展開に応じた配信環境の構築、1人1台端末への学習支援ソフト導入により県立学校におけるICTを活用した学習環境を整備
- ・ 県立学校ICT環境整備事業費【教育財務課】（再掲） 204,587→204,587
全県立学校の普通教室や理科室などの特別教室に、大型展示装置、無線LAN、パソコンなどのICT環境やデジタル教材を整備
- ・ 県立高等学校校務支援システム運営費【高校教育課】（再掲） 14,671→14,671
県立高校における情報漏洩防止及び教員の業務負担軽減の観点から、センターサーバー型の統一したシステムにより生徒の成績等個人情報を含む校務全般のデータを管理
- ・ ■ 県立特別支援学校校務支援システム運営費【特別支援教育課】（再掲） 0→60,170
県立特別支援学校における情報漏洩防止及び教員の業務負担軽減の観点から、クラウド型の統一したシステムにより生徒の成績等個人情報を含む校務全般のデータを管理

3 子どもたちの安全・安心の確保と危機管理体制の充実

(学校における新型コロナウイルス感染症対策及び生徒への支援)

- ・ 学習指導員やスクール・サポート・スタッフ等の配置【義務教育課・高校教育課】
241,199→175,425
児童生徒の学習定着・習熟度にあつたきめ細かな指導、学習施設の消毒をはじめとする衛生対策等に必要となる人材を学校に配置
学習指導員（小・中学校 122 人）、スクール・サポート・スタッフ（小・中学校 360 人）、
教師業務支援員（180 人）
- ・ 感染症対策スクールバス運行委託費【特別支援教育課】 358,282→442,404
登校時の車内の密を避けるため、乗車定員の2分の1以下の人数となるよう県立特別支援学校のスクールバスを増車
- ・ 感染症流行下における学校教育活動体制整備事業費【体育健康課】 0→218,250
令和4年度3月補正
県立学校における効果的な換気対策に係る備品等の購入や感染者等が発生した学校において教育活動を継続するため、追加的に必要となる保健衛生用品等を整備
- ・ コロナ禍における「生理の貧困」支援事業費【体育健康課】 4,820→3,340
コロナ禍において顕在化した「生理の貧困」に対し、生徒が無償で生理用品（ナプキン、タンポン等）を利用できるよう、学校内のトイレ等人目を気にせず使える場所に整備

(健康教育の推進、自然災害への備え他)

- ・ **新** 県立学校災害用備蓄品整備事業費【学校安全課】 0→7,400
H30に県立高等学校及び特別支援学校に整備した災害等の非常時対応にあたる職員分の災害用備蓄品（3日分）のうち、保存期限が到来する非常食・飲料水を更新
- ・ 健康教育支援事業費【体育健康課】（再掲） 1,349→1,733
LGBTの正しい理解や性に関する犯罪や暴力の防止等について正しく理解するため、産婦人科医等の専門家による講座を開催
- ・ 食物アレルギー対策事業費【体育健康課】 488→454
教職員等が食物アレルギーに対し正しい理解と対応ができるよう、市町村が開催する食物アレルギー対応研修等へ専門医の派遣等を実施
- ・ 学校防災強靱化推進事業費【学校安全課】 861→687
地区ごとに選出された県立学校防災担当教員が防災士の資格取得するほか、防災教育スペシャリスト養成研修の開催など、学校防災の強靱化を推進
- ・ 学校安全支援事業費【学校安全課】 1,682→1,731
公立学校に防災や防犯、交通安全の各分野の専門家を派遣する等により、児童生徒の安全教育の推進と職員の安全管理を充実

- ・ 学校安全総合支援事業費（国補）【学校安全課】 2,036→2,040
地域全体での学校安全推進体制の構築を図るため、組織的な取組と外部専門家の活用を進めるとともに、国公立学校間の垣根を超えた連携を促進
- ・ 県立学校AED整備事業費【学校安全課】 2,228→2,228
心肺停止時における救急救命の観点から、県立高等学校及び特別支援学校にAEDを設置
- ・ 学校緊急連絡メール配信事業費【学校安全課】 2,057→2,057
非常時に保護者等へ必要な情報を一斉配信するとともに、「心のアンケート」を実施するため、県立学校に緊急連絡用メールサービスを整備
- ・ 日本スポーツ振興センター共済給付金【体育健康課】 122,564→122,564
県立学校の管理下における児童、生徒等の負傷、疾病、障害、死亡に対して、医療費、障害見舞金、死亡見舞金を支給

4 家庭や地域と学校が連携した教育環境づくりの推進

- ・ 高等学校PTA連合会事業費補助金【高校教育課】 874→974
高等学校におけるPTA指導者の資質の向上と、会員の学習意欲を高め、家庭教育への理解を図るため、高等学校PTA連合会の事業費の一部を支援
- ・ 県PTA連合会事業費補助金【義務教育課】 1,209→1,209
小・中学校におけるPTA指導者の資質の向上と、会員の学習意欲を高め、家庭教育への理解を図るため、岐阜県PTA連合会の事業費の一部を支援